

## 先生のための「経済教室」(沖縄) 記録

1. 日時：2020年1月18日(土) 13時00分～17時00分
2. 場所：沖縄県立図書館4階ビジネスルーム(カフーナ旭橋A街区ビル)
3. 主な内容

沖縄は気温が高い日が続いていたなかで、前日から急に気温が下がり、寒さが感じられるなか、26名の参加者のもと教室が開催された。

最初に桑原康二沖縄県金融広報委員会副会長(日本銀行那覇支店長)の開会挨拶があり、日本銀行那覇支店は全国の支店の中で唯一、一般者も見学できる広報展示室を併設し、予約でガイド付き見学も可能であることが紹介された。

また、「金融リテラシー調査 2019年」の概要をもとに、「正答率の都道府県別ランキング」では、正答率の低い都道府県で金融トラブル経験者の割合が高い傾向が窺われることや前回最下位だった山梨県が、行政を含めリテラシー活動(啓蒙活動)を展開してきたこと、最下位の沖縄県は、学生から高齢者まで金融リテラシーをあげていかないといけない現状が取り上げられた。

次に篠原総一経済教育ネットワーク理事長より趣旨説明がおこなわれた。

経済教育ネットワークは、中学校・高等学校の先生方が経済を教えるための支援を行っている団体で、夏に東京と大阪で開催している「経済教室」を地方でも学んでもらえるよう活動している。学習指導要領が改訂され入試も変わっていく中で、学校でどう取り組んでいけばいいのか苦慮している状況を受け、年末には「入試と授業のあり方」について、冬の「経済教室」を開催したことなどの活動紹介を含め、趣旨説明がなされた。続いて、3つの講演が行われた。

### (1) 新学習指導要領の下での金融教育 ～新科目「公共」における指導計画～

講師：東京都立国際高等学校 主任教諭 宮崎 三喜男 氏

- ・自己紹介のあと、公民の新科目「公共」がこう変わっていくのではないかという話をなさることが伝えられた。
- ・多くの学校アンケートでは、社会保障の授業は2～3時間くらいで行われている。  
宮崎先生は、7時間構成。
  - 1・2時間：社会保障の理念やあり方を考える(DVD, ワークショップ)
  - 3時間：年金保険に関する授業
  - 4時間：医療保険に関する授業(ワークショップ)
  - 5時間：教科書や厚労省が作成したテキストを使用した授業
  - 6・7時間：社会保障政策の提言
- ・「公共」の指導計画例
  - ①「公共」の扉(10時間くらいのイメージ)
    - ア 公共的な空間に生きる私たち
    - イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方
  - ②自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために(52時間)
    - ア 政治的主体となること
    - イ 経済的主体(生産者、労働者)となること
    - ウ 法的主体となること
    - エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となること
  - ③持続可能な社会づくりの主体となるために(8時間)
    - ア 地域の創造
    - イ 持続可能な社会
    - ウ 我が国と国際社会
- ・②「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」は1テーマ×4時間(13テーマ×4時間)

間＝52時間)をイメージし、授業構成をしていくとよいのではないかと?

- (ア) 法や規範の意義及び役割
- (イ) 多様な契約及び消費者の権利と責任
- (ウ) 司法参加の意義
- (エ) 政治参加と公正な世論の形成, 地方自治
- (オ) 国家主権, 領土 (領海, 領空を含む)
- (カ) 我が国の安全保障と防衛
- (キ) 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割
- (ク) 職業選択
- (ケ) 雇用と労働問題
- (コ) 財政及び租税の役割, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- (サ) 市場経済の機能と限界
- (シ) 金融の働き
- (ス) 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり

・財政と社会保障教育の単元について―

生徒の視点から (生徒からの素朴な疑問)

「支払った年金が戻ってこなかったら損ではないか？」

「少子高齢化がますます進んでいくし・・・」

「積立金がどんどん不足しているのは、危ないんじゃないか・・・」

「高齢者はもらい得、若者は損、給付と負担が不公平ではないか・・・」など

教員の視点

「社会保障にかかる時間はせいぜい2、3時間で制度の説明でいっぱい」の現状がある。

宮崎先生から、社会保障の単元では歴史や制度を教えるのではなく、意義や考え方を教えるべきではないだろうか？と助言があった。

・その後、4名ほどのグループで、単元の導入として行う「“社会保障”の在り方を考える」ワークショップを10分ほど行った。「みなさんはどの制度が望ましいと考えますか？」

家族依存型 (日本) : 国民負担率は低い。

家庭内で子育てや介護といった福祉のニーズを満たすため、それを主に担う女性の負担が大きい社会。

政府依存型 (スウェーデン) : 国民負担率は高い。

政府が福祉のニーズを満たしてくれるため、福祉サービスを誰もが比較的平等に利用できる社会。

“もっと稼いでやろう！”という意欲が失われてしまう可能性や子どもがいない家庭も高い税負担になることが問題点。

市場依存型 (アメリカ) : 国民負担率は低い。

福祉サービスを市場から購入することになるため、個人の所得に応じて福祉サービスの利用に大きな格差が生まれる社会。(高所得者は超豪華なサービスを利用できるが、低所得者はサービスを利用できないこともある)など、格差社会が生じる。

・社会保障を行っていくためには、財政が関わってくるので、日本財政状況についても取り上げられた。

「日本の赤字国債をどうしたらいいか？みんなで話し合ってみよう。」

ワーク1 歳入を増やす方法を考えてみよう。

ワーク2 歳出を減らす方法を考えてみよう。

ワーク3 歳入を増やす、歳出を減らす以外の方法を考えてみよう。

ワーク4 日本の赤字国債をどうしたらいいか？

・さらに、実践紹介として、「開かれた教育課程」をキーワードに、

「持続可能な社会保障制度のために、どのような制度がいいか政策を考え、発表する」という取り組み例が紹介された。

単元の最初にワーク → 真ん中で知識を得るための座学 → 最後に政策提言などのワーク  
(ゲストティーチャーにジャッジしてもらう)

- ・政策提言は1時間は考えて、1時間で発表する(教員の指示が明確であれば1時間でも可能)。

空想ではなく、現実的な提言をしよう(財源など)

社会保障制度は損得ではなく、「支え合い」という視点を忘れずに

社会保障制度全体の話か、年金の話か医療制度の話か、整理しよう

社会保障は子育てと働き方の問題と密接にリンクしている

短期的な視点だけでなく、中長期的な視点も持とう(持続可能な社会)

- ・その他として、アナロジー的手法が紹介された。

歳入が 50 兆円

歳出が 95 兆円

日本の財政赤字問題は  
どうすればいい  
のか?

⇒

お父さんの給料が 50 万円

お母さんが 95 万円使っている

この家庭はどうしたらいい?

経費削減か? 新たな財源確保か?

ギリシアは 30 兆円の債務で大問題なのに、  
なのに、日本は 1,000 兆円でなぜ大丈夫  
なのか?

⇒

郊外にマホーム?

六本木ビルズ 最上階にマホーム?

身の丈に合った経済活動

身の丈に合っていれば、どんなに借金を  
借金をしていいのか?

⇒

将来、子ども部屋の増設の借金はOK  
父親のお酒代はNG

建設国債はOK, 赤字国債はNG

- ・アクティブ・ラーニングは

教えないで議論させて学びが深まるのか?

教えることがたくさんなので、話し合わせる時間がない。

このジレンマに陥るが、宮崎先生は話し合いに約6割の時間をかけており、ノートは年間で10ページほど、授業で取り上げた内容すべてを覚えているわけではないので、学んだことが将来も残るように取捨選択なさっているとの報告があった。

## (2) ネタの発掘から授業構成へ ～環状線発車メロディ、ネジ、交換など～

講師：立命館大学他 非常勤講師 河原 和之 氏

- ・これまでの略歴や「ネタの発掘」がライフワークであるという自己紹介のあと、ネタの発掘と活用の仕方、授業の構成について話された。

- ・「ネタ」とは

知識・理解、見方・考え方につながるもの

授業のねらいと合致したもの

で、ネタを使った構成力が授業力量である。多くの情報から、ネタを見つけ、どこで主発問をし、組み立てるかが大事であることを話された。

(例) 空き家が増えているが(約864万戸)、これからの対策は?

空き家が増えるとどうなるの?

沖縄の空き家率は47位(9.7%)

沖縄はなぜ、空き家が少ないのでしょうか？

ネタは1冊から1つ程度、見つけられる。来沖時の機内で読まれた『Q&A 日本経済のニュースがわかる！ 2020年版』（日本経済新聞社編）から上記（例）は発問された。

- ・教材（ネタ）の発掘方法として、街・旅先・研究会などからの例も紹介された。

街で見つけた例：SDGsトレイン（阪急電鉄、阪神電車）

→ 自分たちの小さな行動が地球の未来を変えることにつながることを学べる。

旅先で見つけた例：三分一湧水（山梨県 清里高原）

→ 旅先で撮影（自撮）した1枚の写真から戦国大名のやったことが垣間見える。経済学でいうところの「政府の役割」を学べる。

研究会で得た例：くまモンの赤色は？

→ 熊本県が全国一の生産量を誇る農産物（「トマト」と「スイカ」）について学ぶことができる。

- ・琉球新報の新聞記事（沖縄県今帰仁村なきじんそんのスイカ栽培の記事）

→ 促成栽培の見方・考え方を培って、次の単元で「活用」する（人間と自然環境の関係）。

書籍（『世界史序説』 岡本隆司著 ちくま新書）

→ 4大文明の周りに乾燥地帯があるワケ（交換）

モンゴル帝国の支配（モンゴル人の食から考える「帝国の範囲」、個性を殺さない全体がまとまる統治）

なども紹介された。

- ・次に、大阪環状線発車メロディーを教材とした「地域学習」の例が紹介された。

●「福島」駅は円広志さんの「夢想花」なぜ？

●〈グループで考えよう〉次の出発メロディー6曲はどの駅？

①「あの鐘を鳴らすのはあなた」（和田アキ子）：天王寺

②「ていんさぐぬ花」：大正

③法螺貝に鉄琴の一種であるビブラフォンの組み合わせ：大阪城公園

④「森のくまさん」：森ノ宮

⑤「祭り」（太鼓集団「怒」の「祭り」と笛の音）：芦原橋

⑥「さくらんぼ」（大塚愛）：桜ノ宮

●天王寺、大正、鶴橋駅メロディーの背景

四天王寺はなぜ上町台地の北の端にあるのか？

大正区に沖縄出身者（人口の4分の1）が多いワケは？

「焼肉食べ放題」と「ヨーデル食べ放題」なぜコリアンタウンは作られたのか？

- ・続いて、「ネジから物流の意義を考える ～取材から授業づくり～」として、東大阪市がネジの町であることから、サンコーインダストリー株式会社の取材をもとにした事例が紹介された。

会社紹介パンフレットの冒頭文に「お客様が必要な時に必要な数の商品を、たとえ、ねじ1本からでもお求めいただける。あたかもお客様の倉庫として、便利に快適にご利用いただける場所、それがサンコーインダストリーの目指す物流センターです。」

とあり、全国にある約300万アイテムのネジのうち、約100万アイテムを揃え、1,160社から入荷、5,440社に出荷している。

会社ごとに仕分けし出荷するのが、この会社の主たる仕事であり、パナソニック、阪急電車、ディズニーランドなどへも出荷している。東大阪市のネジの多くはここから出荷される。17時30分までに入荷すれば、次の日の9時には東京に入荷され、参画する運送会社は23社である。

この事例から、経済の効率化＝物流（流通）の役割を学ぶことができる。

- ・さらに、『未来の年表』河合雅司氏の著作をクイズ化した教材も紹介された。

### (3) 新学習指導要領の下での経済教育 ～教科書の使い方～

講師：同志社大学名誉教授 経済教育ネットワーク理事長 篠原 絵一 氏

- ・最初に「経済は身近なことからとらえようとするが、現実の経済は複雑すぎて、身近なことだけでは経済のことは理解できるものではない。だから、先生方は、複雑すぎる経済の事象や社会問題を、生徒に対して「見える化」してあげることが肝要」ということが伝えられた。この点に関しては、先ほどの河原先生の講演は、最高に参考になったと思われる。
- ・ついで、新しい教育のねらい（問題意識）を、（教育実践研究オフィスF）鍋島史一氏の「教室は『答えを伝える場』から『答えを作る方法を学ぶ場』に転換を迫られています。教え方・学ばせ方も大きくかじを取らざるをえません。」という引用を使ってまとめた上で、具体的には経済教育では

#### ●学習指導要領と入試問題の求め

資料やデータを読み解いて、読み解いた結果を使って考える

#### ●「授業」と「教科書」の関係

1. 「科書を教える」から「教科書で教える」という時代を経て、今は「教科書のメッセージを読み解いて、読み解いた結果を使って教える」段階に入っていること、その際
2. 教科書から、授業作りの3要素を読み取れるか、
  - ①読み解くべき資料やデータは？（理解のための素材の仕込み方）
  - ②どう読み解くのか？（「覚える」から「理解」へ）
  - ③何について考えさせるのか？（考えるための素材の選び方）

さらに、

3. 学校差、個人差があるため、経済教育は画一的にはできない。そこで、この問題を「教科書をどう使って、どう補完するのか」ということを教科書から読みこめるか、が先生方の「教科書の見方」のポイントであることをまとめられた。

・以上の一般的な問題意識に続いて、沖縄県での採択数が最も多い教科書を事例として、教科書が生徒や教員に対して、具体的に経済の「何を、どう教える」というメッセージを伝えようとしているのか、あるいは伝えるべきかについて、二つの章を取り上げて解説していかれた。

・経済に関して、(1)教科書（経済単元）全体のメッセージと、(2)金融、財政、国際経済、社会保障などの章ごと（単元ごと）のメッセージがある。

・(1)教科書全体のメッセージについては、最初に教科書の目次を眺めて欲しい。そこから、経済学習は、社会全体の「分業と交換」の「仕組みとその働き」について学ぶが、その仕組みは次の2種類であることを読み取って欲しい。

- ① 市場：市場という分業と交換の仕組み
- ② 市場の失敗：市場介入や政府などによる分業と交換の仕組み

どの章も、この二つのうちのいずれかであること。教育計画を立てる上で、どの章の記述が①と②に対応しているか、先生方ご自身の「頭の整理」をしておくことが、「must（必ずやらねばならない作業）」であることを強調された。

- ・(2)その上で、本日の講演では、「市場」の章で伝えるべきメッセージとして、「なぜ市場経済か＝市場のはたらき」であること、需要曲線や供給曲線はその説明のための道具に過ぎないことを読み取って欲

しい。好例として、中学公民（東京書籍）の記述の要点を紹介された。

- ①「価格の動きを通して、誰が誘導しなくとも、社会の希少な生産資源が、人々の望む暮らしができるように（＝効率的に）各財の生産に配分されていく」（「見えざる手」の意味）。

その上で、

- ③ どのようなとき、市場メカニズムはうまく機能するのか、市場メカニズムが機能しないのは、どのようなときか  
市場メカニズムが機能しないとき、どのような不都合がおこるのか  
不都合に対して、どのような対処のしかたが有効か  
などについて考えていく。つまり、①を理解し、その結果を使って②について考えていく、という教育である。

- ・次に国際経済の章では、メッセージとしては2つの市場メカニズムの原理と、それがうまくいかなかったときの問題や解決策についてのべている、と理解すべきだろう、との指摘があった。

通常、国際経済問題の章は

- 1.リカードの比較優位の説明
- 2.国際収支表の読み方と外国為替レート
- 3.国際機関の設立経緯と国際貿易通商交渉の歴史
- 4.情報化、グローバル化など国際経済環境の変化がもたらす貿易や国際問題の課題の4つの節で構成されている。それぞれが一見無関係のように見えるが、実は、そのすべてが次のような一連の「教えるためのメッセージ」を発している、ないしは発すべき節であるという指摘であった。

1. 国際間の自由な財取引の意義（自由貿易が、国際間の効率的な資源配分を実現させる  
本来は、これがリカードの比較優位の原理のメッセージであるが、教科書の単純な数値モデルでは、この点が十分に伝わっていないきらいがある
2. 国際収支表の節は、本来は、自由な国際金融取引が国際間の資金の効率配分を実現させることを伝えるべきである。そしてその際の取引の分類として国際収支表に載る項目がある、という理解ができればよからう。
3. 以上のような2種類の市場（財市場、金融市場）がうまく機能しないとき、各国はどのような解決策を考えてきたか、というのが国際機関設立の経緯や国際貿易交渉の歴史である。
4. 最後に、生徒に伝えるメッセージとして、国際経済環境の新しい変化に対応して、貿易や国際金融にも新しい変化が起きていることを取り上げる。具体的には、①情報化と②グローバル化が、財の生産立地、取引の仕組み、国際交渉などに新しい流れを強めていることに触れている。とくに、企業生産のバリューチェーン化は、リカードの理論では説明のつかない新しい貿易構造や貿易摩擦を生んでいる、この点を、先生方は、生徒に問題意識として植え付けていくことを意識して欲しい、との要望があった。

- ・本日の講演のまとめとして、再度、教科書が、先生や生徒に対して「何を教えるのか、どう教えるのか」を伝えようとしているのか、まず、しっかりと読み取ることがすぐれた経済教育への第一歩であることを強調された。

文責 沖縄県立那覇商業高等学校 全日制課程 西原とも子

